



# 第1章

---

## 日本を代表する盲導犬協会へ チャレンジの連続です

現在、日本では、約 1,000 頭の盲導犬とそのユーザーがともに歩いています。

目の見えない人、見えにくい人に快適で安全な歩行を提供するために、  
盲導犬訓練、ユーザーサポート、人材育成、盲導犬理解促進といったあらゆる分野で  
視覚障害者目線で、新たな事業展開を行ってきました。

そして、これからは、

日本一の盲導犬協会からさらに一歩進んで、世界から信頼される協会へと歩み続けます。



# 盲導犬の歩み、世界と日本 日本盲導犬協会の使命



ドイツから始まった近代盲導犬事業は100年を迎え、日本で最初に設立された日本盲導犬協会は設立50周年を迎えました。盲導犬と視覚障害者を取り巻く社会環境は大きく変化しています。その軌跡を知ることで、今の盲導犬事業や当協会の使命が見えてきます。



## 日本盲導犬協会の使命

日本盲導犬協会は、1967年(昭和42年)8月に設立されました。当協会は、盲導犬を育成し、視覚障害者に盲導犬を無償で貸与することで、視覚障害者の自立と社会参加を促進していただくことを目的とした公益財団法人です。

現在、日本には、盲導犬育成を目的とする団体が11あり、日本盲導犬協会もその中の一つです。

当協会は、神奈川訓練センター、日本盲導犬総合センター(愛称:富士ハーネス)、仙台訓練センター(愛称:スマイルワン仙台)、島根あさひ訓練センター(愛称:パピネス)の4つの訓練施設を持ち、毎年50頭の盲導犬の育成を目標としている国内最大規模の盲導犬育成団体です。

日本盲導犬協会は、自らの使命をこう考えています。

犬を含め誰の犠牲の上に立つことなく

「目の見えない人、目の見えにくい人が、  
行きたい時に、行きたい場所へ行くことができるように、  
私たちは、安全で快適な盲導犬との歩行を提供します。」

この使命を達成するために、協会の活動を支援してくださる方々や企業、団体とともに良質な盲導犬の育成を目指しています。

まずは多くの方々に、盲導犬のことを正しく知っていただき、視覚障害者のことをよく理解していただくことが大切だと考えています。

## 11 団体 14 訓練施設

日本盲導犬協会 日本盲導犬総合センター  
(愛称:盲導犬の里 富士ハーネス)

中部盲導犬協会

関西盲導犬協会

日本盲導犬協会 島根あさひ訓練センター  
(愛称:パピネス)

九州盲導犬協会

兵庫盲導犬協会

日本ライトハウス 盲導犬訓練所

北海道盲導犬協会

日本盲導犬協会 仙台訓練センター  
(愛称:スマイルワン仙台)

東日本盲導犬協会

全国盲導犬協会

アイメイト協会

日本盲導犬協会  
東京事務所

日本補助犬協会

日本盲導犬協会 神奈川訓練センター



杖を持った人が犬と歩くイラストが掲載された17世紀オランダの書籍。「忠実な犬が彼を綱で引いている」と説明されています



中国の絵画 (13世紀)



ドイツ・オルデンブルグに設立された盲導犬学校。系統だった訓練はここから始まりました

## 2 生活のパートナーとしての盲導犬

人と盲導犬とのかかわりは古く、イタリアのポンペイには紀元1世紀頃に描かれたと思われる、目の不自由な人が犬と一緒に歩く壁画が残され、6世紀のフランスには、盲目の宣教師が白い小型犬に導かれ、ブルターニュ地方を宣教して歩いたという記録が残っています。

1819年(江戸時代後半)、ウィーンのヨハン・ウィルヘルム・クライン神父は、その著書の中で、視覚障害者が安全に歩くための方法として、犬の首に杖のようなものをつけて歩く歩き方や、障害物回避やドアの発見を犬に教え、実際に生活している様子について書いています。

### 100年の歴史、世界の盲導犬事業

現在行われているような社会福祉事業としての盲導犬育成は、第一次世界大戦中の1916年(大正5年)、ドイツのオルデンブルグに盲導犬訓練学校が設立されたのが始まりです。戦争で失明した兵士のために盲導犬の育成を進めたのです。1920年代には、ドイツ国内には4,000人ほどの盲導犬ユーザーがいたといわれています。そして1928年(昭和3年)には、イタリアに盲導犬育成施設が設立されます。

同じ頃、スイスで犬訓練所を開設していたドロ

シー・ハリソン・ユースティス夫人が、ドイツの盲導犬育成の様子を母国アメリカに戻り紹介するとその反響は大きく、ユースティス夫人は自ら盲導犬を訓練し、モリス・フランク氏というアメリカ人に提供します。アメリカに帰国後1929年にシーイング・アイを設立します。イギリスでも、同じ記事を読んだ女性たちの活躍で1931年にイギリス盲導犬協会が興ります。

その後、第2次世界大戦が終わり、1951年(昭和26年)にオーストラリア、1953年に南アフリカで盲導犬協会が設立されます。その4年後、日本でも国産第1号盲導犬が誕生するなど盲導犬事業は世界各国に広がっていきました。

そして、1989年(平成元年)、国際盲導犬学校連盟が28団体で設立されます。その後、加盟団体は増え、2003年、国際盲導犬連盟(IGDF=International Guide Dog Federation、詳細は第4章190ページ)となり、2017年には30か国92団体が加盟しています。

当協会の多和田常任理事は関西盲導犬協会にいた1994年に査察員(アセッサ)に就任、現在に至る20年以上、世界の盲導犬の訓練の質を支えています。

また、2004年から4期(1期4年)連続で連盟を運営する7人のボードメンバーの一人として当協会の常任理事が選ばれ、世界の盲導犬事業の発展に寄与しています。

## 日本における盲導犬団体の歴史

日本における盲導犬研究は1935年(昭和10年)前後、日本シェパード犬協会(JSV)の相馬安雄氏が最初とされています。1938年(昭和13年)アメリカのゴルドン氏と盲導犬オルティが来日し、日本各地で講演会を開いたのが、日本で盲導犬が紹介された最初です。ゴルドン氏と歓談した相馬氏は、翌年ドイツで訓練を受けた4頭のジャーマン・シェパードを輸入。ドイツ語の命令語を日本語にして教え直し、日本の生活環境に対応できるように再訓練して、戦争で失明した兵士の生活をサポートしたのです。その後、十数頭の盲導犬が繁殖・訓練されましたが、戦争が激しくなったため一旦途絶えることになります。

戦後、相馬安雄氏、松井新二郎氏(国立東京光明園)やJSV会員の塩屋賢一氏によって盲導犬訓練法の研究が再開されます。1957年(昭和32年)5月に相馬安雄氏が逝去、その遺志を子息・雄二氏が継ぎます。同年、塩屋氏が国産第1号の盲導犬チャンピオンを誕生させ、滋賀県立彦根盲学校の教諭で視覚障害者だった河相洸氏の盲導犬として活躍しました。

1959年(昭和34年)には日本盲導犬協会設立へ動きが加速します。1961年の日本盲人社会福祉施設協議会の第9回定期総会の出席者名簿に、日本盲導犬協会・相馬雄二、松井新二郎両氏の名前が記されています(第4章181ページ)。そして、建築家久米権九郎氏、獣医師小松貞尚氏(東京虎ノ門ライオンズクラブ)、歌舞伎役者坂東三津五郎氏(東京霞ヶ関ライオンズクラブ)らの尽力も加わり、1967年(昭和42年)財団法人日本盲導犬協会

(初代理事長 迫水久常)が設立します。

その後、東京畜犬株式会社の盲導犬訓練を継いで、1970年に中部盲導犬協会と札幌盲導犬協会(現・北海道盲導犬協会)が設立。日本ライトハウスがオーストラリアに職員を派遣し、1970年に盲導犬訓練事業を開始。1971年、日本盲導犬協会を離脱した塩屋賢一氏が東京盲導犬協会(現・アイメイト協会)を設立します。さらに、1974年には栃木盲導犬センター(現・東日本盲導犬協会)、1980年関西盲導犬協会、1983年福岡盲導犬協会(現・九州盲導犬協会)、1990年兵庫県盲導犬協会(現・兵庫盲導犬協会)、2002年日本補助犬協会、2013年全国盲導犬協会が設立。現在、11団体が指定団体として盲導犬を育成しています。

なお、アイメイト協会、日本補助犬協会、全国盲導犬協会の3団体を除く8団体で認定NPO法人全国盲導犬施設連合会(NFGD)を組織しています。(詳細は第4章186ページ)

## 盲導犬と法律の整備

盲導犬が日本社会で初めて法的に認知されたのは、1978年(昭和53年)に道路交通法が改正されたときです。盲導犬に対して、車両の一時停止や徐行の義務が生まれ、道路通行上も保護を受けるようになりました。

時を経て、2000年(平成12年)には社会福祉法が改正され、盲導犬育成に関する事業が第二種社会福祉事業に認定されました。これは、われわれ盲導犬育成団体が社会的に福祉事業者と法的に認知されたことを示しています。

盲導犬の受け入れについては、1970年代に入ってから徐々に広がってきました。1973年に国鉄

## 11 団体沿革

現在の法人名	法人設立年・設立時名称		協会設立	IGDF加盟年	NFGD加盟年
公益財団法人 日本盲導犬協会	1967年8月	財団法人日本盲導犬協会	1967年8月	1998年	1995年
社会福祉法人 中部盲導犬協会	1975年1月	財団法人中部盲導犬協会	1970年9月	1994年	1995年
公益財団法人 北海道盲導犬協会	1972年9月	財団法人札幌盲導犬協会	1970年11月	1989年	1995年
社会福祉法人 日本ライトハウス	※	行動訓練所(盲導犬訓練所)	※	1995年	1995年
公益財団法人 アイメイト協会	1971年10月	財団法人東京盲導犬協会	1971年10月	1989年→ 2016年脱会	1995年→ 同年脱会
公益財団法人 東日本盲導犬協会	1974年11月	財団法人栃木盲導犬センター	1974年11月	1990年	1995年
公益財団法人 関西盲導犬協会	1983年7月	財団法人関西盲導犬協会	1980年11月	1989年	1995年
公益財団法人 九州盲導犬協会	1983年9月	財団法人福岡盲導犬協会	1983年9月	2003年	1995年
社会福祉法人 兵庫盲導犬協会	1997年4月	社団法人兵庫県盲導犬協会	1990年	2012年	2001年
公益財団法人 日本補助犬協会	2009年4月	一般財団法人日本補助犬協会	2002年6月	2016年	-
一般財団法人 全国盲導犬協会	2013年9月	一般財団法人 全国盲導犬協会	2013年9月	-	-

※日本ライトハウスは1970年に盲導犬事業開始、1978年に行動訓練所(現・盲導犬訓練所)設立

※IGDF=国際盲導犬連盟、NFGD=全国盲導犬施設連合会

(現・JR)が盲導犬同伴での乗車を認めます。建設省通達で公営住宅の入居、運輸省通達でバスへの乗車、ホテル・旅館の利用、環境省通達で国民宿舎の宿泊、厚生省通達で飲食店への入店と、一歩一歩進みました。

そして、2002年(平成14年)5月には身体障害者補助犬法が成立し、10月に施行されました。これにより盲導犬は、介助犬、聴導犬とともに補助犬に認定され、公共施設や交通機関をはじめ、飲食店やスーパー、ホテルなどいろいろな場所にユーザーと同伴できるようになりました。

2016年(平成28年)4月からは障害者差別解消法が施行され、「障害」は身体機能の欠陥という「医療モデル・個人モデル」から、多様な人に対する配慮ができていない社会の不備という「社会モデル」という考えに代わります。そして、盲導犬の受け入れを拒否することは、視覚障害者への直接差別であり、合理的な配慮をすることが求められることになりました。

こうした社会変化は、自然に生まれたものではありません。盲導犬ユーザー、多くのボランティアの方々、そして当協会をはじめ、さまざまな関連団体が長年続けてきた地道な努力の成果によるものです。

### 日本の盲導犬の実働数

日本の盲導犬の育成状況は、2016年度は11団体で134頭が育成されました。うち当協会は46頭で34%です。また実働頭数は951頭(2017年3月末)です。2008年度に1,045頭と1,000頭超えを果たし、翌年は1,070頭にまで増えました。しかし、各盲導犬育成団体も努力していますが、その後は引退頭数が育成頭数を上回り、実働頭数は減少を続けています。当協会は2015年より14頭増加させることができました。

そして、日本の盲導犬数は諸外国と比較するとまだまだ低水準であることも事実です。たとえばイギリスは、人口は日本の半分ほどですが、盲導犬ユーザーは4,000人です。

コンサルティング会社BCG(ボストン・コンサルティング・グループ)が社会貢献活動として当協会と協働で実施した試算をもとに全国盲導犬施設連合会加盟8団体では、現在盲導犬を必要としている顕在希望者、潜在希望者を合わせた数を約3,000人と推計しています。まだ盲導犬が不足しているのが、日本の現実です。

## 3 愛情のバトンタッチ 盲導犬の一生

日本盲導犬協会では育成される盲導犬は、誕生から生涯を終える日まで、多くのボランティア、訓練士、盲導犬ユーザーなど、たくさんの人の愛情とともに一生を過ごします。

### ●誕生から2か月まで

健康で盲導犬に向いている性質の両親から、盲導犬候補の子犬が誕生します。この時期、子犬は、母犬のそばできょうだい犬(同胎犬)と一緒に過ごします。静岡県にある「富士ハーネス」には、母犬が衛生的な環境の中で安心して出産するための親子棟、子犬たちが生後2か月まで母犬や同胎犬たちと一緒に過ごす子犬棟など、設備の整った施設があります。当協会では、ボランティアの自宅出産は少なく、多くの母犬は富士ハーネスで出産し、パピーウォーカーと呼ばれるボランティアに引き渡すまでの幼犬期を過ごします。

### ●パピー(2か月から1歳まで)

子犬は、この時期、パピーウォーカーの家庭で育ちます。ここで子犬は、いろいろな出来事や出会いを経験し、人間の家庭と社会で暮らすためのルールを学びます。子犬の社会化を促すための大切な時期です。

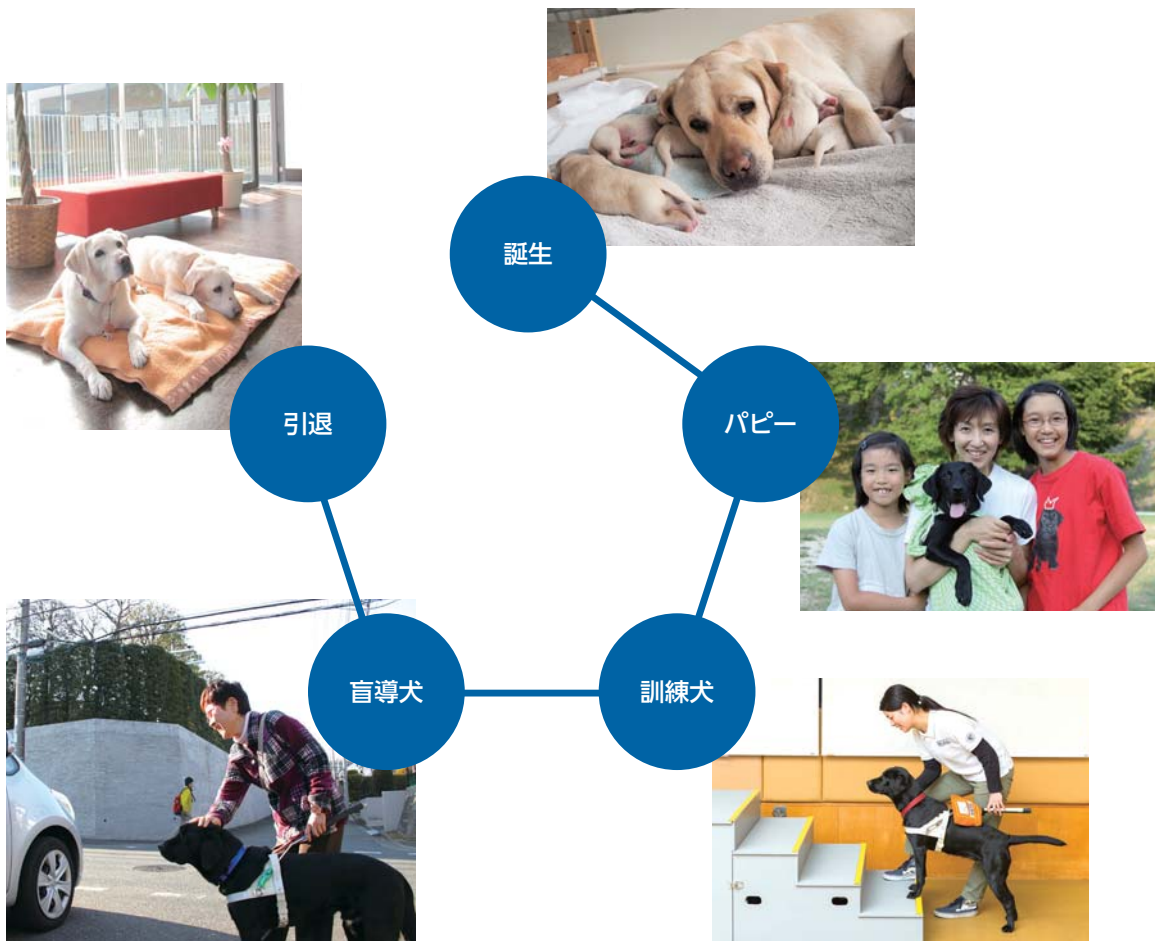
### ●訓練犬(1歳から2歳まで)

1歳になると、盲導犬になるために訓練センターに戻ります。基礎訓練や誘導訓練を行い、3回の評価(テスト)を受けます。この評価に合格すると、将来パートナーになる視覚障害者との共同訓練へ進みます。訓練をしても盲導犬になれる犬は全体の3、4割といわれています。当協会ではこの割合(成功率)を5割に上げるためにさまざまな施策を行っています。盲導犬になれなかった犬は、キャリアチェンジをし、盲導犬PR犬、家庭犬、介助犬、セラピー犬などとして別の道を歩みます。

### ●盲導犬(2歳から10歳ぐらいまで)

共同訓練が終わると、視覚障害者と盲導犬との生活が始まります。まずは、自宅周辺で通勤や買い物など、実際に使う道を歩き、ユーザーと盲導犬相互に新しい環境を紹介し、訓練士はその状況を確認します。これが直後フォローアップです。その後3か月、6か月と定期的なフォローアップがあり、1年後には「出発式」への出席、さらに盲導犬が6歳のときには「6歳時コミュニケーション会」に出席します。

このように担当訓練士と定期的に連絡を取り合



い、必要に応じフォローアップしていきます。

#### ●引退犬 (10歳から)

盲導犬は10歳前後で引退します。まだ元気な年齢ですが、早めに引退して、引退犬飼育ボランティアの家庭や富士ハーネスでゆったりとした環境の中で暮らし、最期の日まで愛されて過ごします。盲導犬のハッピーな引退は、次の犬に代替することにつながります。富士ハーネスには盲導犬慰霊碑や納骨堂があり、亡くなった犬たちの供養を行っています。

## 4 盲導犬ユーザーになるには

2013年度(平成25年度)の国の調査では、わが国の身体障害者数は約348万人です。そのうち、視覚障害者は約31万人です。これは、「身体障害者手帳(視覚障害)」を交付された人が31万人という意味で、日本眼科医師会は視覚障害者数を164万人に上ると発表しています。

盲導犬とともに生活する視覚障害者というと、

全く何も見えず光も感じない「全盲」というイメージがあるかもしれませんが、しかし、視覚障害者の中で障害の程度が最も重い1級の人には10万5,000人いますが、1級の場合でもわずかに見えている人もいます。「全盲」より「ロービジョン(弱視)」「目が不自由だけれどもある程度は見ることのできる」の方がはるかに多く、8割以上を占めているのではとされています。

ロービジョンの定義は「両眼に眼鏡をかけた矯正視力が0.05以上0.3未満」ですが、その見え方や見えにくさは千差万別です。これが、社会から多くの誤解を生む原因となっています。視覚障害者=全盲という誤解があり、晴・盲と二分され、指導も二分化されました。一人ひとりが持っている保有能力を認め、その人にあった訓練をする必要がありますが、訓練士にとっては大変難しいことです。また、社会もロービジョンの方が盲導犬を使うことに戸惑いを持っているのが実情です。

当協会は、早い時期からロービジョンの方を受け入れ、むしろ最近は積極的に受け入れています。3人に1人の盲導犬ユーザーが保有視力を利用し

ながら盲導犬歩行をしています。訓練士にとっては、一人ひとり個別の対応をすることになり、さらに視機能は低下していきますから、経年的な対応もすることになります。

### 盲導犬とともに生きてほしい人

日本盲導犬協会では、盲導犬を無償で貸与しています。犬を飼育するためのフード代や医療費、飼育に必要な犬具等は自己負担です。盲導犬と歩くためのハーネスやリード等は最初のみ給付しています。また、犬飼育が経済的に大きな負担にならないよう、フード・医療費・犬具購入にあたっての支援制度も行っています。

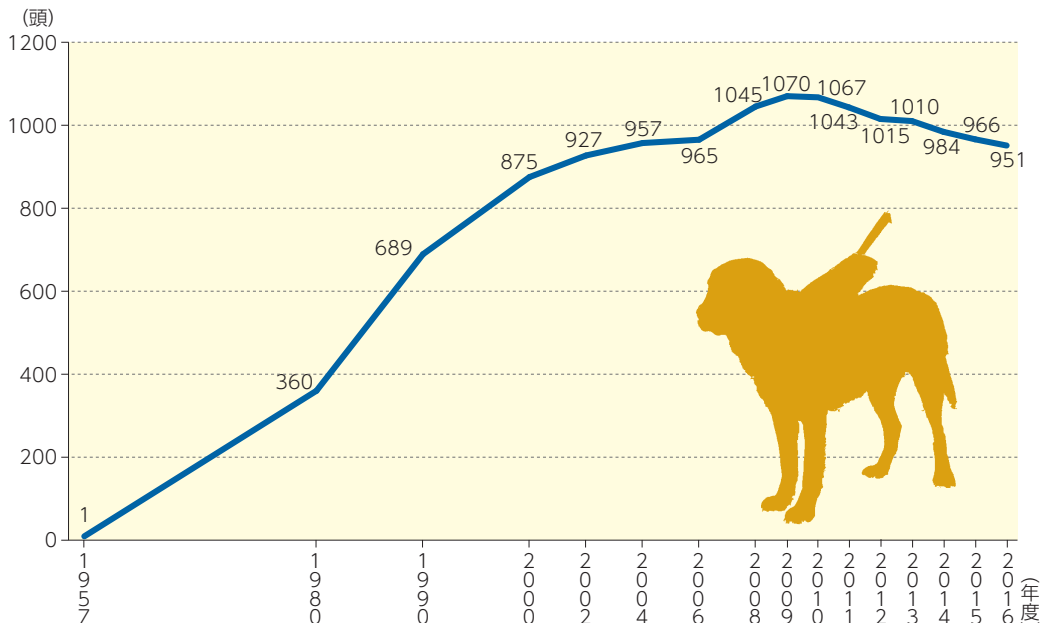
「自由に外出できるようになりたい」「通勤、通学したい」「子供の送り迎えをしたい」「いつでも安心して歩きたい」など、盲導犬を持ちたいと考える理由はさまざまです。見えない、見えにくいために「歩く」ことに困難や危険を感じていた人が、盲導犬を得ることで「歩く」ことを可能にし、新しい人生を踏み出す第一歩にしたい、盲導犬とともに生きることで、視覚障害者の人生の質が上がり、かつパートナーである盲導犬も幸せであることが、当協会は大切だと考えます。ですから、全盲でなければならぬ、仕事をしていなければならないなどの制約はありません。

当協会はそうした視覚障害の方々の思いに応えるべく、盲導犬の育成と歩行のサポートを充実させています。

共同訓練を受けられる人の要件を、日本盲人社会福祉施設協議会策定の盲導犬歩行指導計画では次のように定めています。

- 目が見えないあるいは見えにくいために、歩行に相当の困難・危険があるもので、自立と社会参加をしようとする意欲があるもの。
- 盲導犬を利用できる身体的・精神的条件を備え、自立と社会参加が期待できるもの。
- 盲導犬を適正に使用及び管理することができるもの。
- 盲導犬を苦しめることなく愛情をもって適正に取り扱い、適正な飼養ができる環境を保持できるもの。
- 盲導犬を清潔に保ち、公衆衛生上の危害を生じさせないもの。
- 盲導犬使用者の健康・障害・環境状況の変化、犬の行動・健康の変化に応じ必要とされる補充訓練、追加訓練その他再訓練を受けられるもの。そして、年齢については、原則18歳以上ですが、18歳未満および70歳以上の方は相談に応じています。🐾

盲導犬の実働頭数の推移



※日本盲人社会福祉施設協議会の年次報告より